

1. 調査の概要

1-1 パーソントリップ調査の概要

1-1-1 道央都市圏パーソントリップ調査とは

パーソントリップの「トリップ」とは、人がある目的のため、出発地から到着地まで移動することを指し、交通計画を検討する際の単位として使われます。

パーソントリップ調査（PT調査）は、「どのような人が」、「いつ」、「どこからどこへ」、「どんな目的で」、「どんな交通手段で」移動しているかを把握することを目的とした調査です。

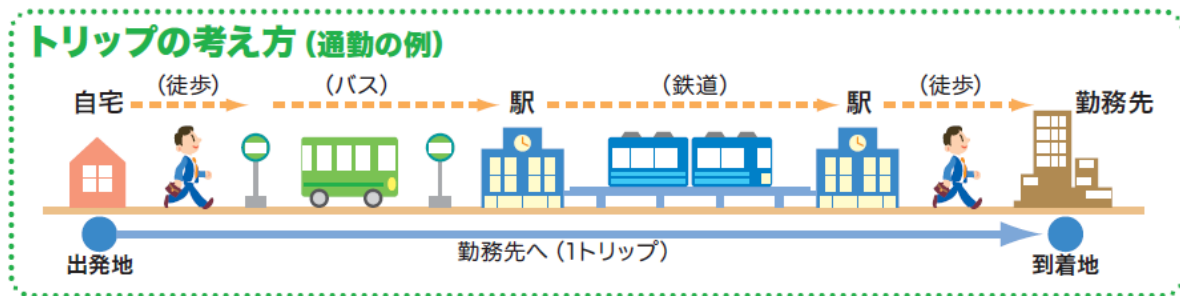
パーソントリップ調査では、札幌市を中心とする、通勤・通学や買い物など、日常の交通面でのつながりの強い地域を「道央都市圏」として調査対象範囲としています。

「道央都市圏」では、これまで同様の調査を約10年ごとに3回実施しており、今回で4回目になります。今回の対象地域は右図に示す7市3町です。

調査対象範囲(道央都市圏)



※石狩市は、旧厚田村・旧浜益村を除く「旧石狩市」のみ



1-1-2 調査の構成

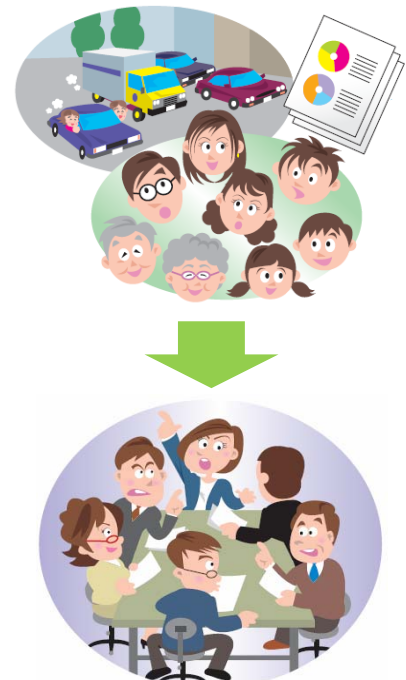
調査の内容ですが、まず「**本体調査 (秋期平日調査)**」で約10万人の方についての交通実態データを取得しています。

さらに、平日と休日の違いや季節による違いを把握するため、「**休日調査**」・「**冬期調査**」を併せて実施しています。

また交通実態データに加え、交通サービスへの満足度などを聞く「**ライフスタイル調査**」や、高齢者や障がい者、物流業者や観光業者など、様々な方の意見を聞く「**グループインタビュー**」を実施しています。

これらの調査から得られた交通実態データと様々な意見をもとに、将来交通量の予測を行いつつ、「道央都市圏総合都市交通体系調査協議会」で、交通の問題や目指すべき方向性について議論してきました。

・交通実態データ・将来交通量予測
・様々な方からの意見 など

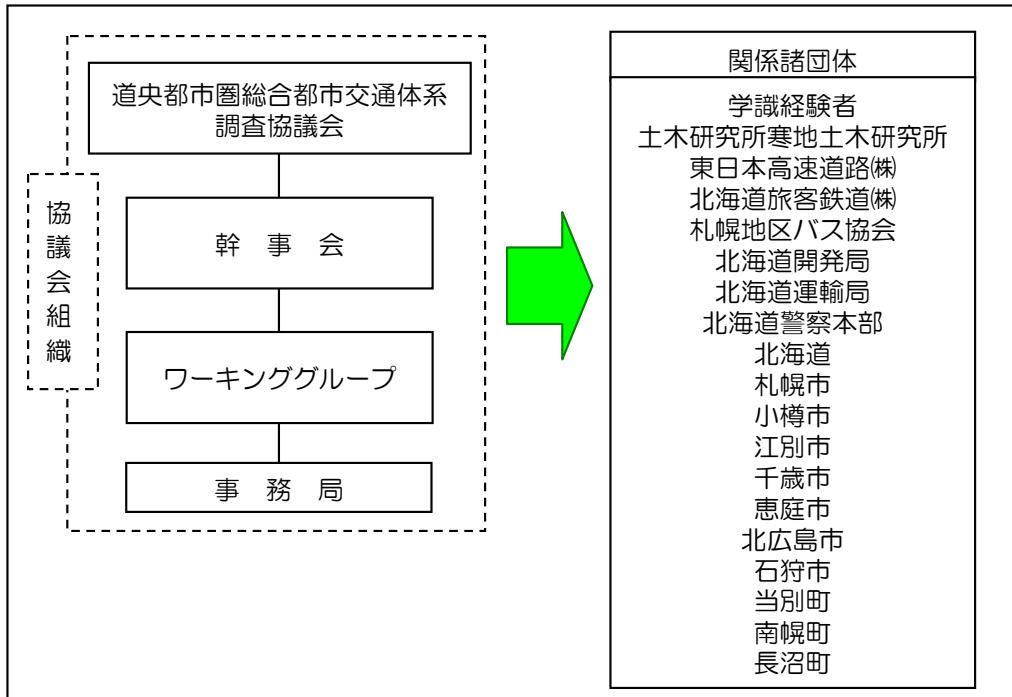


学識者や関係機関からなる協議会で議論

1-1-3 調査の組織体制

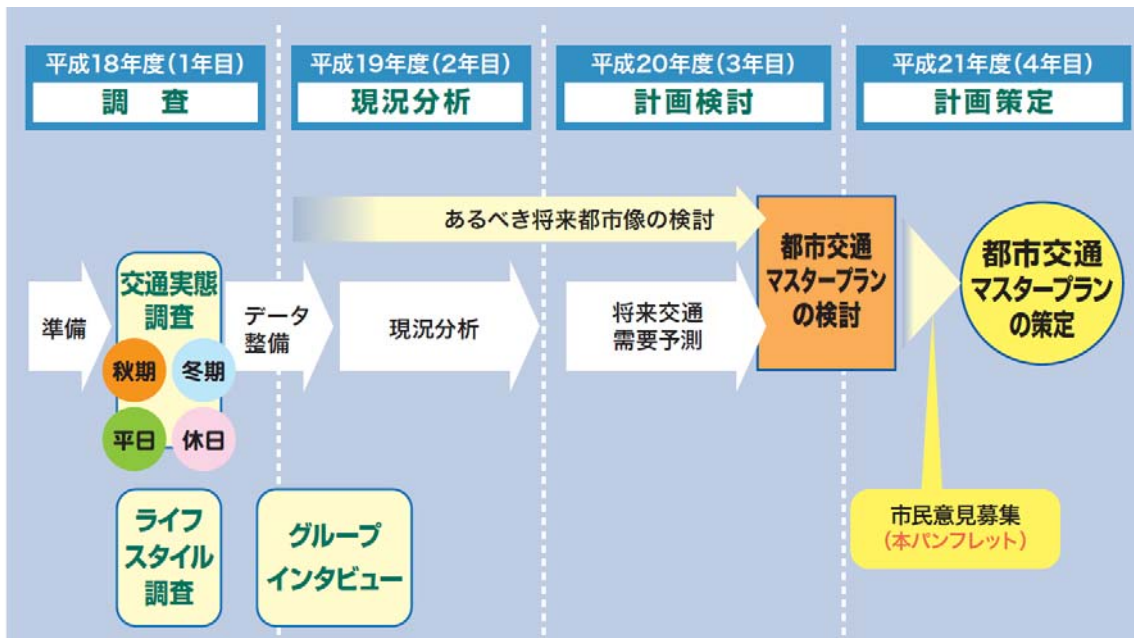
本調査は、調査圏域が広大でかつ規模が大きく、調査内容も複雑多岐にわたっていることから、調査の実施にあたっては、学識経験者をはじめ各関係機関の協力を得て、円滑かつ効率的に調査を進めていく必要がありました。

このため、各関係機関から構成される「道央都市圏総合都市交通体系調査協議会」（平成18年4月設立）を設置し、調査に関する企画・研究ならびに総合的な調整を図りました。さらに、協議会運営を円滑に遂行するため、幹事会、ワーキンググループ、事務局を設けました。



1-1-4 調査のスケジュール

本調査では、平成18年度にパーソントリップ調査（交通実態調査）を実施し、その結果を踏まえ現況分析を実施した後に、将来交通需要予測を含む計画検討を実施し、今年度（平成21年度）、都市交通マスタープランを策定する予定です。



1-2 都市交通マスタープランの概要

1-2-1 マスタープランの内容

パーソントリップ調査の結果をもとに、交通の現状・将来の課題を把握し、あるべき将来像を実現するための交通のあり方として、「都市交通マスタープラン（MP）」を策定します。

この「都市交通マスタープラン（MP）」は今後の様々な施策・計画の方向性を示すものです。

また、MP策定後も、定期的に交通状況や施策進捗をモニタリングし、情勢にあわせた計画の見直しや、事業の進行管理を進めていきます。

	構成	内容	留意点
都市交通 マスター プラン	あるべき将来像 (計画理念)	<ul style="list-style-type: none"> 道央都市圏を取り巻く社会情勢の変化や将来的な動向を踏まえ、今後目指すべき交流・連携の方向性を、土地利用面・交通面から超長期的な観点により検討したもの。 	<ul style="list-style-type: none"> 各自治体の長期総合計画等の上位計画や都市マスタープラン等の既往計画を踏まえ検討。
	骨格交通体系 および各種施策 (骨格道路網・骨格公共交通網・ソフト施策等)	<ul style="list-style-type: none"> 都市圏将来像の実現に向けて、長期的(概ね20年間:計画目標年次H42・2030年)に取り組むべき交通体系・施策(ハード・ソフト)をとりまとめたもの。 	<ul style="list-style-type: none"> MPは、第3回MPや第3回PT後の各種検討結果、都市圏将来像や各種データなどを踏まえ検討。 実現可能性の判断は、MP策定後の各種検討会議で検討。
	短中期行動計画	<ul style="list-style-type: none"> MPで示す交通体系・施策の実現に向けて、今後概ね5～10年といった短・中期的な期間において取り組むべき方向性・方針(PDCA計画)、および横断的に取り組むべきテーマ等についてとりまとめたもの。 	<ul style="list-style-type: none"> 定量的な評価は、中間年次(H32・2020年)の交通需要予測、およびMP評価指標に対する中間年次評価指標の目標達成度(進捗度)について検討。

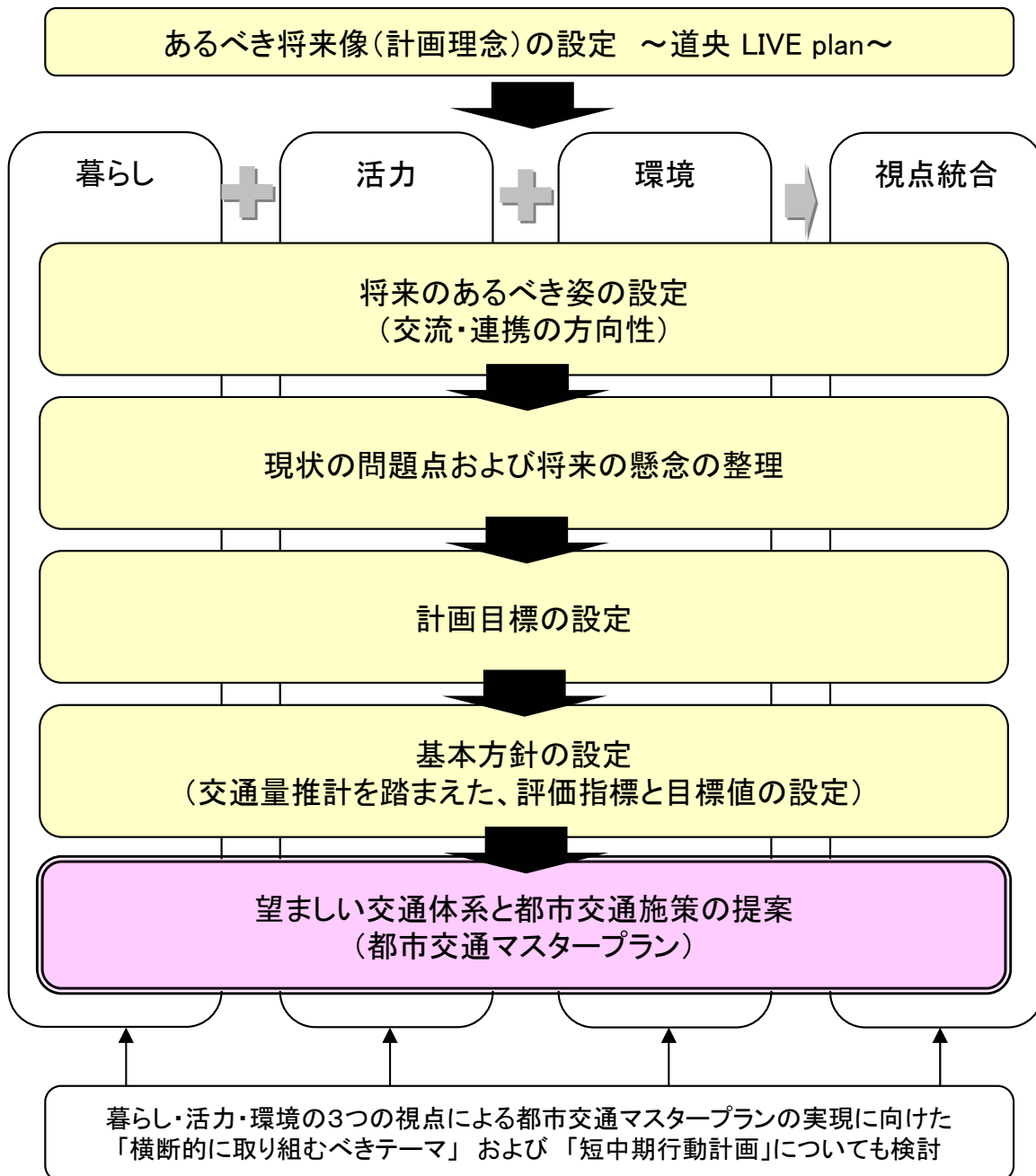
【参考】

マスタープラン策定後の取り組み例

取り組み例	内容	
都市・地域総合交通戦略	<ul style="list-style-type: none"> 都市圏のMPや短中期行動計画を踏まえ、概ね5～10年といった短・中期的な取り組み方針および優先的施策群(短中期ハード施策、ソフト施策)を自治体別に詳細にとりまとめたもの。 	
将来の個別計画・事業の検討、および地区交通計画の検討	①個別路線の検討	<ul style="list-style-type: none"> 都市圏のMPを踏まえた、実現の可能性に関する詳細な検討。
	②事業評価等における費用便益分析、事業採算性の検討	<ul style="list-style-type: none"> 本PTデータを活用した、事業の妥当性についての定量的分析。(個別事業の事業評価(新規採択・再評価・事後評価)、総合交通対策調査審議会の検討等)
	③駅前広場等交通結節点の計画、地区交通計画	<ul style="list-style-type: none"> 本PTデータを活用した、駅前広場等の施設整備計画の検討や地区内の交通計画の検討等。
	④都市計画道路の見直し	<ul style="list-style-type: none"> 本PTデータを活用した、各自治体の都市計画道路の変更・廃止検討。
	Etc.	

1-2-2 検討の流れ

都市交通マスタープランは、後述する「暮らし」、「活力」、「環境」といった3つの視点で、都市圏像と交流・連携のあり方を検討し、それらを視点統合した都市圏の交流連携の方向性を踏まえ、望ましい交通体系と、都市交通施策を抽出し、これらを取りまとめたものを『都市交通マスタープラン』として策定します。



1-2-3 マスタープランの位置づけ

骨格交通体系および各種施策は、「都市圏の目指すべき将来像を実現するための、望ましい交通体系の姿」であり、「長期的（概ね20年間：計画目標年次H42・2030年）に実現を目指す骨格交通網や、取り組むべき各種の施策（ハード・ソフト）をとりまとめたもの」です。

このうち骨格交通網は、現況の交通網、既定計画の交通網の他、将来交通量の予測結果と、目指すべき将来像の実現における必要性の高さにより、過去に検討されてきた構想路線の一部を取り入れたものです。

